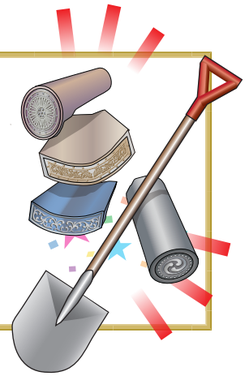
城巽学区　埋蔵文化財発掘調査見学会資料（2024.08.19・22）

平安京左京三条二坊十五町跡・妙顕寺城跡

調査期間：令和６年７月８日（月）～　10月18日（金）予定
調査機関：京都市　文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課



1　調査地の概要

今回の調査は、京都中京労働局建設に伴う調査です。

平安京の中では左京三条二坊十五町に該当し、平安時代前期の公卿・藤原冬嗣の邸宅である「閑院」や豊臣秀吉の宿所といわれた「妙顕寺城」の推定地に位置します。

閑院

嵯峨天皇に仕えて活躍した左大臣・藤原冬嗣（775-826年）の邸宅です。漢詩に度々登場し邸宅には釣殿、茶室、花亭などのある優美な庭園があったと推測されます。

藤原氏にとって重要な土地であったため長く伝領され、藤原兼通（925-977年）が所有した後は、藤原公季（956-1029年）に伝わり、公季の子孫は「閑院流」と呼ばれました。

鎌倉時代には後鳥羽天皇以来８代にわたって皇居となりましたが（閑院内裏）、宝治３年（1249年）や正元元年（1259年）に火災があり正元の焼失以後は再建されませんでした。

妙顕寺・妙顕寺城

この土地に「妙顕寺」が来たのは永正18年（1521年）で、足利義稙の命で二条西洞院に建築したと伝わります。天文５年（1536年）に天文法華の乱で伽藍を焼失し、寺は堺に避難しますが、天文11年（1542年）に後奈良天皇による法華宗帰洛の綸旨によって帰京し、天文17年（1548年）に再建されました。

「妙顕寺城」は、豊臣秀吉が当時「妙顕寺」の位置に造った屋敷の通称です。天正11年（1583年）６月から在京時の屋敷とするため前田玄以が担当し普請を開始しました。文献から天守が存在し、下京の町衆に外堀を掘らせたことや「外城」と「城中」の二重構造となっており、「本殿」「広間」「主殿之外之座敷」「奥之小座敷」「庭」を有したこと、狩野永徳の障壁画があったことが知られます。またこのことから城が防御施設であると同時に儀礼空間を備えた権威の場でもあったことがわかります。

妙顕寺城は、秀吉不在時には前田玄以の宿所となっていました。京都所司代として玄以はここで公家らと面会し、政務をおこなっていました。秀吉が聚楽第に移った後は「二条法印屋敷」と称されたといい、江戸時代前期の絵図には、前田玄以の部下の名が見えます。

2　今回の発掘調査成果

事前に行った試掘調査では土地の来歴のとおり、遺構面（昔の地面）が複数あることがわかりました。上から順番に掘り進めたところ、第３面で安土桃山時代の末に掘られた溝（図３ピンク線）を検出しました。

よく観察すると溝は、池（図４水色線）を埋め立て掘られていました。池の埋土から慶長年間（1596-1614年）の遺物が出土したため、慶長以前にあった池を埋めて掘られたことがわかります。

池と溝の重なりと埋め立ての年代から、池は妙顕寺城に伴うものと推測できます。そして溝は聚楽第（天正15年完成〈1587年〉）造営後の時期であるため、前田玄以の屋敷かその部下に譲った時に掘られたものと推測されました。また、池を埋めた土の違いから池の形が何度か変わった可能性が出てきました。

ところで、池の西側では、同じ高さで平安時代末から鎌倉時代の遺構が見えています。妙顕寺や妙顕寺城の造営時に大規模な整地をしたわけでは無く、周辺より少し高い良い条件の土地であったことが推測されます。

現在の遺構面の下には平安時代の中期や後期の土師器を含む地層が堆積してます。平安時代だけでもあと３面ほど地面があることから「閑院」に関係する遺構がでてくるか期待が持てます。

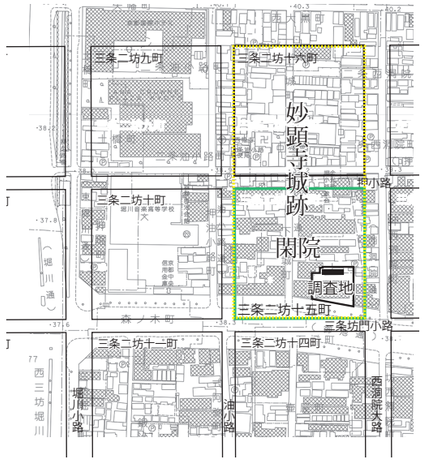


図１　調査地と遺跡範囲（1：5,000）

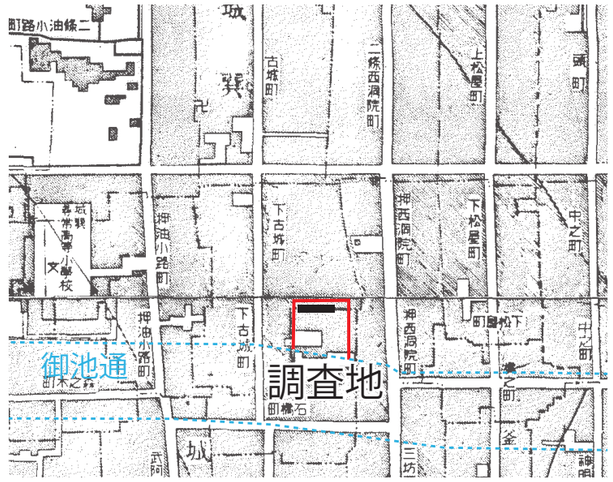


図２　大正11年測図京都市都市計画図における調査地（1：2,000）

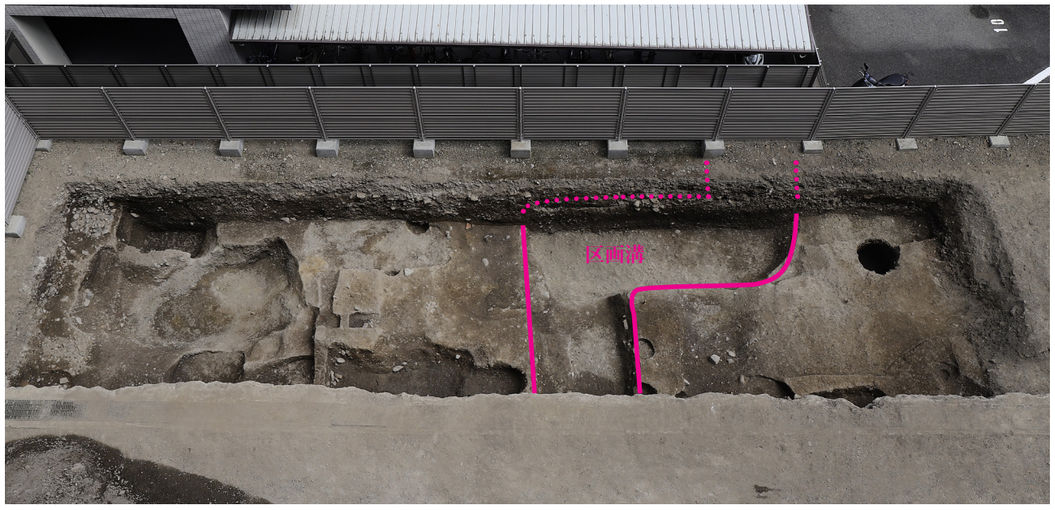


図３　第３面全景（安土桃山時代から江戸時代初頭）　南から

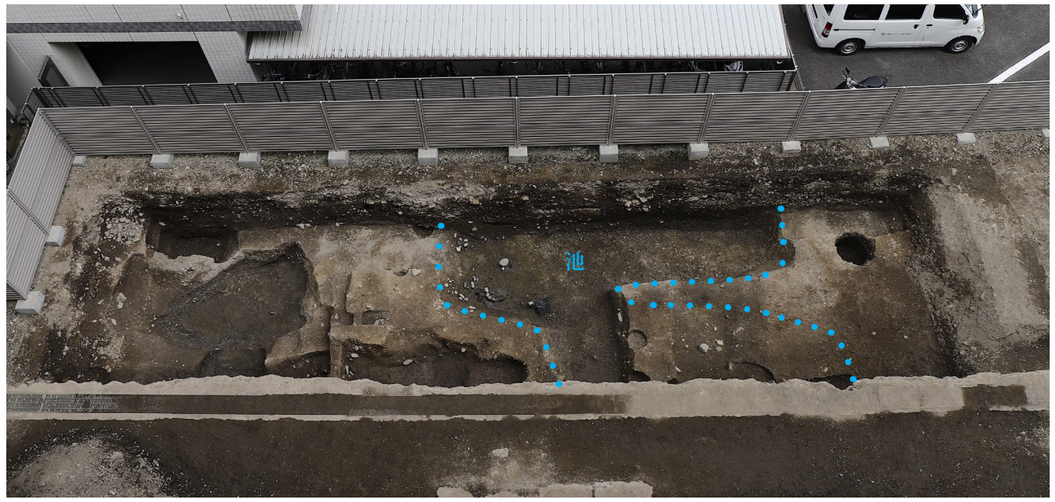


図４　第3.5　面全景（安土桃山時代）南から